

難加工精密板金で、新たな価値を 創出するベストパートナー

納期相談
企画力自信有
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット
量産対応



難易度の高い製品の溶接風景

業務内容
医療・医薬・介護機器などの
精密板金スペシャリスト

「水野製作所」は昭和47年創業の精密板金加工会社。「顧客の信頼と満足を得る製品の提供」を品質方針に掲げ、板厚0.3mm～6mmの鉄・ステンレスなどを材料にし、医療・医薬・介護機器に使われる筐体などの部品を数多く加工している。

工場内にはベンダー14台、溶接機13台、タッパ加工機3台など多様な機械を、社員数の6倍にあたる30台近く備える。ブランク加工から溶接、バフ研磨まで一貫加工できる体制を社内を整えている。

強み
40年以上にわたり
培ってきた技術力

長年、さまざまな難加工に取り組み、培ってきた知識や技術を用いて、難易度の高い製品でも対応できるのが強み。例えば、曲げ加工で通常、抑え金型が入り込めない奥行きのある加工物でも、金型に工夫を施すことで、他社のように切断や溶接をせずに対応できるほか、取引先の求める加工コスト削減にも貢献する。

また、厚みの異なる1mm以下の金属同士の溶接でも、熱による金属の反りを抑え、図面に記載された精度を実現できる。水野康行社長は「これができるのも長年、取引先の難題に対応してきたおかげ」と胸を張る。

設備増強
プレス機導入で
加工能力1.4倍に

最近では、複数の取引先から設備機器に使われる筐体の加工が増えている。歯科技工士向けは月25台から70台に、光ファイバー制御向けでは月50台から240台に

4倍以上にも増加した。

そこで、平成29年11月にサーボプレス機1台を導入。これにより、部材の加工範囲が最大1.2mから2.5mに拡大し、増加する大型品の対応も可能となった。同装置は油圧式のため以前より加工速度が向上し、水野社長は「加工能力が以前より1.4倍になった」と導入効果に目を細めている。

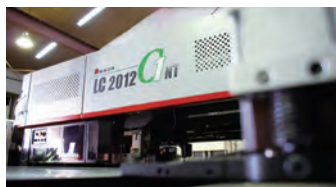
今後の展望
さらなる
加工体制の改善へ

今後の課題は加工体制の改善だ。まず平成30年度までに各装置をネットワークでつなぎ、1つの画面で加工状況を確認できる体制を構築する。これにより不良が発生した工程を特定し、迅速な対応が可能になる。

また、受注増に対応するために溶接機やプレス機の導入を進めていく。ただ、工場の敷地が限られているため、水野社長は「将来は工場の移転を進めていきたい」と話す。今後も受注増対応や新規の取引先開拓に取り組み、「2020年4月期には1億5,000万円の売り上げを目指したい」と意気込む。



製造部のスタッフ



最新鋭の複合加工機

当社の歴史



父の水野仲治（なかじ）が創業し、40年以上にわたり東大阪で主に医療・医薬・介護機器などの精密板金加工を行っています。技術と経験に基づき、試作品から量産品に至るまで「顧客の信頼と満足を得る製品の提供」を品質方針に、お客様に喜んでいただける製品づくりをしています。

代表取締役社長 水野 康行さん

<http://www.mizuno-works.co.jp/>

主な事業内容

精密板金、医療機器・医薬機器・介護機器の精密板金の加工

主な取引先(納入先)

医療機器・医薬機器・介護機器メーカー、産業機器メーカーなど

●住所 〒579-8014 東大阪市 中石切町6-3-69
●TEL 072-982-3450
●FAX 072-982-4958
●創業 昭和47年5月
●設立 平成2年5月
●資本金 1,000万円
●従業員 5名

大阪29